



長野県労働組合連合会（県労連）

長野市県町593 Rinks593 TEL026-217-9071 Fax026-217-9073

<http://kenrouren.assrv.com/>



県内各地で処遇改善と職場改善を力強く訴え

秋闘統一行動日 医労連が各地で行動

ケア労働者の処遇改善！

診療報酬・介護報酬の10%引き上げを！

11月6日の秋闘統一行動日に、長野県医労連はケア労働者の処遇改善と人手不足の解消を求め、県下各地で宣伝や記者会見などの行動を行いました。



前日の回答指定日には、県内の一時金回答が平均0.88カ月にとどまり、物価高騰には遠く及ばない厳しい内容となりました。日本医労連の集計でも、長野県は全国下位に位置しました。

これを受け、各単組・支部では朝からストライキや職場集会に立ち上がり、午後からは地域に出て声を上げました。長野駅前に約100人の仲間が集まり、「人手不足の中で仕事が次々と増え、もう限界です」と現場の実態を訴えました。その後、長野駅から県庁までデモ行進を行い、記者会見でもあらためて処遇改善、診療報酬・介護報酬の10%引き上げを強く求めました。

飯伊、上伊那でも同様の行動が取り組まれ、各地でケア労働の現状を広く訴えた日となりました。

JMITU長野地本 秋闘で奮闘

JMITU長野地本では、2025年秋闘において、各職場での粘り強い交渉を通じて回答を引き出しました。一時金は平均2.042カ月（前年2.384カ月）となり、引き続き交渉を進めています。

職場要求では、熱中症対策の強化や有給休暇付与の拡充、ハラスメント防止研修の実施、人間ドック補助制度の改善など、働く環境を改善する具体的な多くの成果を獲得しました。一方で、定年延長や労働時間短縮の課題では進展が乏しく、引き続きの粘り強い取り組みが求められています。（写真は25春闘）



県労連青年部企画第7弾「パラグライダー」

10月25日（土）、青年部企画第7弾として富士見パノラマリゾートにて、気軽に浮遊感覚を味わえるパラグライダー半日体験を行いました。

高教組・医労連・障教組から、合計17名の参加がありました。この企画はチラシを配布するとすぐに申し込みがあり、早々に定員満了となりました。

パラグライダーとは、ナイロンの薄い生地と細くて丈夫なラインで構成された、もっともシンプルな“空を飛ぶ翼”です。動力を使わず、斜面を走って自力で飛びます。当日は天気が怪しかったため、簡単な説明を受け、すぐにゲレンデへ。スクールのインストラクターよりパラグライダーの構造を説明いただき、いざパラグライダーを広げて装着！安全確認方法もしっかりとレクチャーいただきましたが、ちんぷんかんぷんでした。



インストラクターさんに言われるとおりに、走る！飛ぶ！着地！を順番に行いました。飛んだあとは、自分でパラグライダーを担いで斜面を登り元の位置へ。2人1組で順番にフライトし、1人合計3回飛ぶことが出来ました。短い時間ではありましたが、お互いのフライトを見学したり、応援したりしながら、待ち時間も参加者での交流が深まりました。



長野県の医療・介護の危機をともに乗り越える いのち まもる県民集会

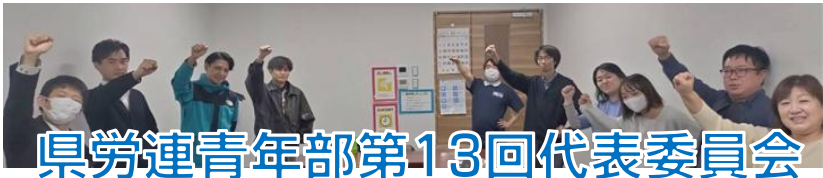


「長野県の医療・介護の危機をともに乗り越えるーいのちをまもる県民集会」が11月1日、長野市アクティーホールで開かれ、会場に170人、オンラインで40人が参加しました。県労連や医療・福祉関係団体など9団体でつくる実行委員会が主催。基調報告で県社保協の藤本ようこ事務局長は、診療報酬・介護報酬の低さや物価高騰への未対応、医療機関の倒産・廃業の増加など危機的状況を示し、報酬10%以上の引き上げと公費による賃上げ支援を国に求める運動を提起しました。

リレートークでは村上晃弁護士が「医療へのアクセスは人権」と述べ、医療費抑制策の転換を訴えました。大桑村議の瀬瀬悠乃さんは「木曽病院の分娩を守りたい」と地域医療の維持を報告。難病連の田幸康宏会長は高額療養費の自己負担引き上げやOTC類似薬の保険除外に反対し、患者の実情を語りました。障害者県連の松丸道男代表は障害者施策・報酬の改善を要請しました。

講演で日本医療総合研究所の寺尾正之氏は「医療・介護は超高齢社会の基盤インフラ」と強調し、「社会保障は経済を支える力」と訴えました。

終了後は約40人が長野駅前で行った宣伝・署名行動を行い、10筆の署名を集めました。



11月7日（金）、県労連青年部第13回代表委員会をRinks593にて、11名で行いました。来賓として、全労連青年部関東甲信越ブロック選出の杵島さんにお越しいただきました。

コロナ後初めてリアル参加のみでの代表委員会となり、アイスブレイクも交えながら和やかな雰囲気での議案提案や各組織の報告を行い、全員が話をすることができました。満場一致で来年度の方針・予算を確認しました。その後、懇親会に全員参加し、親睦を深めました。

今年度の役員体制

役職	氏名	出身単組
部長	カナダ レン 金田 蓮	医労連・飯田民医労
副部長	イシイ 石井 ひかる	障教組・諏訪養護
事務局長	カラサワ ユウサク 唐澤 佑作	高教組・本部
事務局次長	ニイラ ヒロキ 新楽 祐幸	高教組・本部
幹事	ナリタ ハヤト 成田 隼	長野労連・（医労連）
幹事	ヤ エダケイコ 八重田景子	県労連・（医労連）

連載「レバカレ参加レポート」第2回 県労連 岩谷元気さん



初日のオープニングトークとコーチング分科会に参加しました。全体会では、若い世代の率直な思いや、「自分たちが変えていく」という前向きな空気に刺激を受けました。

コーチング分科会では、ベテランの地区労連事務局長の方とペアになり、世代を超えてフラットに学び合えたのが印象的でした。アドバイス禁止の模擬対話を通じて、相手の考えを引き出すことの大切さを実感。これまでの「聞くだけの会議」を見直し、対話を中心にした場づくりに挑戦したいと思います。